

授業概要

本講義の目的は、できる限り実際のデータを分析することによって、経営の現場で用いられる統計的手法を学ぶことである。そのために、まずは測定値が観察される背景、つまりデータが発生する確率的な基礎を理解する。続いて、平均値や標準偏差などの基本統計量などについての算出方法やその性質を理解する。もちろん、そうした基本統計量も確率的な誤差をもっているので、そうした基本統計量の検定と推定も理解することになる。

その後、実際のデータを用いて、それぞれのパラメーターが持つ経営学的な意味合いを学び、最終的には経営政策的な判断ができるようなところまで理解を高めていきたい。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	確率論の基礎 1
第3回	確率論の基礎 2
第4回	検定 1
第5回	検定 2
第6回	検定 3
第7回	推定
第8回	相関係数 1
第9回	相関係数 2
第10回	需要の価格弾力性
第11回	Excelによる回帰分析
第12回	回帰パラメーターの確率論的基礎
第13回	需要の価格弾力性の計算
第14回	経営政策上の意味合い
第15回	まとめ（授業内容の確認）
第16回	テスト

到達目標

経営の現場で必要とされるデータの収集とモデルビルディングが的確にできるようになることが、本講義の到達目標である。実際のデータを自分で収集（計測）し、自分でモデルを組み立てられるようになってほしい。

履修上の注意

出席をしないと、次々と理解できなくなる。欠席をしないこと。また、ただ出席をするだけでなく、ちゃんとノートをし、講義時間内に理解すること。自分で統計分析にトライできるよう、できる限りさまざまな経営データを提示するので、講義時間以外に予習と復習をしてもらいたい。

予習復習

需要を分析するためのデータがたくさん用意されているので、自分でエクセルを用いて計算をしてもらう。さらに、自分の興味がある産業のデータを集めて分析してみると、もっと多くのことが理解できるようになる。そうした受講生には、有効なアドバイスができると思う。

評価方法

定期テスト 60%、平常点（出席・小テストの成績） 40%

テキスト

授業プリントを用意する